

潮騒

太平洋に面する表浜海岸には、広大な空の下、砂浜と海食崖が続く、自然が創造した雄大な美しい景観が広がっています。

一方で、砂浜や海食崖は、常に自然災害と向き合った状態にあり、その防災機能を発揮して、波浪や津波などの自然災害から、わたし達を守ってくれています。

わたし達が何百年も受け継いできたこの恵みを後の世代に残すため、わたし達にできることを考えてみましょう。

CONTENTS

目次

- ◆特集「ほうべ(浜・崖森)を守る」……………P.1
- ◆表浜むかし話「寝祭り」……………P.5
- ◆田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要……………P.6



ほうべ(浜・崖森)を守る

◎ほうべの現状

●ほうべの海食(浸食)

渥美半島の台地は、今から60万年から2万年ほど前に、主に天竜川方面から沿岸流で運ばれた砂礫が浅い海底に堆積し、日本列島を南から北へと押し上げるフィリピン海プレートの力によって隆起し形成されました。柔らかなまみ砂の地層は、台風時の激しい風雨や高波による浸食、地震による崩壊によって削り取られ、40～60mの高い崖が見られます。

また、厳しい自然の洗礼とともに、供給源となる河川からの流下土砂の減少や、海食崖の崩壊が相まって、現在も海岸線の後退が進んでいます。

過去の文献に記載されている海食崖の崩壊や、古地形図から比較類推すると、大きなところでは数百mの海岸線の後退が生じていると考えられています。

ほうべは美しい姿を見せる一方で、現在も悲鳴をあげ続けています。



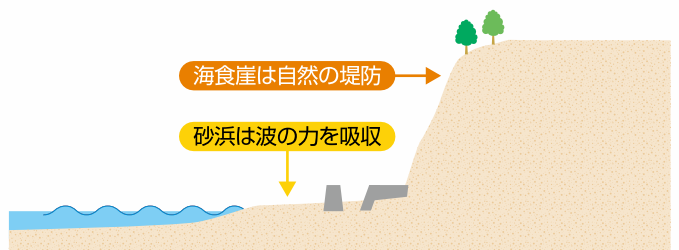
▲大雨などによって崩落した崖森 (H21.8 東ヶ谷海岸)



▲浸食が進む現在の砂浜 (東ヶ谷海岸)

●砂浜・海岸林・海食崖の防災機能

砂浜は、波のエネルギーを吸収し、波浪や津波による背後への影響を軽減する重要な防災資源です。



● ほうべを浸食から守るために

厳しい気象状況に対応するため、表浜海岸では様々な海岸保全施設の整備が進められています。また、砂浜を守るボランティア活動も活発に行われています。

保安林



遠州灘の崖森を覆っている森は、自然林と人工林（海岸防災林）が混在していますが、海岸防災林の造成についてははっきりとした記録がなく、その沿革を知ることはできません。

愛知県では、昭和7年に「海岸砂防造林奨励規則」が制定され、渥美半島全域における海岸防災林の造成が本格的に開始されました。

海岸防災林の造林作業は、県の指導の下、地域の人の手によって行われ、以後昭和30年代まで続き、順次「保安林」として指定されました。

海食崖が多い豊橋市～旧田原町までの間は、土砂の流出の防備等を目的とした保安林が多く、標高差が少ない旧赤羽根町～旧渥美町の間は、背後に



ある住宅や耕地を潮・風・飛砂害から守ることを目的とした保安林が多くなっています。

海岸防災林
植栽前のほうべ
(昭和30年撮影)

● 海岸保全施設の整備

愛知県では、昭和35年から海食崖前面の侵食による崖崩壊への対策として、消波堤や傾斜護岸の整備を進め、近年では砂浜を維持・回復することを目的として、景観にも配慮した離岸堤や人工リーフ（潜堤）の整備、さらには、保安林の保全を目的とした治山事業が行われています。

海岸保全



● 傾斜護岸

海岸線の崩れや高波、高潮、津波の侵入を防ぎます。

◀ 百々海岸



● 消波堤

水際付近に設置し、波の勢いを弱めます。昭和40年から整備が開始され、前線に渡り整備が完了しています。

◀ 大草海岸

● 治山

台風や地震などによって崩壊した斜面を元の森や傾斜地に戻します。東部太平洋岸地域では現在7箇所の整備要望をしています。

東ヶ谷海岸 ▶



● 離岸堤

海岸線と平行に陸から離れた沖に設置し、波の勢いを弱めます。東部太平洋岸地域では、現在、豊橋・田原海岸で調査設計（一部工事）が行われています。

イメージ(若見海岸) ▶



● 砂浜を守るボランティア活動

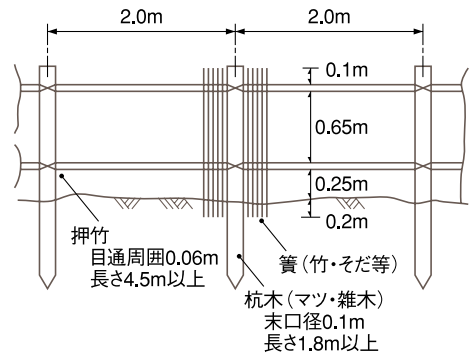
遠州灘では、1年を通じて強い風が吹き、砂を飛散させます。

こうした砂の飛散を防ぐ方法として「堆砂垣(たいさがき)」というものがあります。

これは、砂浜に竹などを並べて作る垣根のことで、この垣根が風で飛ばされてくる砂をせき止め、砂浜の流出を防ぎ、堆砂垣は埋まります。この堆砂垣の設置を繰り返すことによって、徐々に砂浜を高くすることができます。一見原始的な方法のようですが、効果は抜群だと言われています。

静岡県の中田島砂丘では、古くからこの方法が使われていますが、最近では渥美半島の表浜でも、海岸を守るボランティア活動により、堆砂垣の設置が行われています。

● 施工標準図(参考)



H21.6.7

※P7参照

谷ノ口海岸で開催された「表浜おいでん祭」で堆砂垣が設置されました。



6月7日設置



3月7日設置

いずれも谷ノ口海岸(H21.8撮影)に設置された堆砂垣です。3月7日に設置された堆砂垣は、たくさんの砂で埋まりました。



仲谷 光咲祈さん(神戸小4年)

講座を受け、砂浜の大切さを知りました。わたし達が作った堆砂垣にもたくさんの砂が付くのが楽しみです。



VOICE!

◎わたし達にできること

かつて表浜海岸は、大人や子どもたちが漁をしたり、安心して遊ぶことのできる場所がいくつもありましたが、その場所も海岸侵食などによってわたし達の記憶から消えつつあります。

同時に、海岸の防災機能を発揮してわたし達を自然災害から守ってきた力も、昔のような能力が失われつつあります。

このように表浜海岸の能力が衰弱した背景には、わたし達

が海岸の利用価値を忘れ、日常生活の中で海岸に目を向けなくなってしまったことがあります。

雄大で美しい表浜の自然環境を次世代にこのまま残すことは、今を生きるわたし達の使命です。

表浜地域の自然環境の利活用を考え、新しい価値を創出すること。これがわたし達にできる第一歩ではないでしょうか。

ほうべの利活用

● 谷ノ口森林レクリエーション公園 (仮称) の整備

東部太平洋岸総合整備促進協議会では、平成10年3月に地域活性化の基本計画を策定し、谷ノ口地区を拠点整備のモデル地区として位置付けました。

その後、地域と市が一緒になって崖森を地域資源として活用する「森林レクリエーション公園 (仮称)」の調査・研究が進められ、いよいよ今年度から現場の具

体的な整備が始まりました。

この公園には、都市と農村との交流拠点施設を予定しており、現在は地元自治会や有志による里山整備作業が進められています。地域活性化や崖森保全の先駆的な取り組みとして、大いに期待されています。



▲谷ノ口地区で進められている主要事業



▲主な整備内容 (全体面積3.89ha)

園地 ● 園地、花木園、園路、展望施設、野外便所など
野営場 ● 管理棟、キャンプ場、バンガロー、コテージなど



▲地元自治会と有志による里山整備作業



▲公園予定地から望む太平洋

谷ノ口総合整備促進協議会
公園準備委員会
委員長 福井 公雄^{きみお}さん



谷ノ口森林レクリエーション公園 (仮称) は、地域の人に愛されることはもちろんのこと、来訪者にとっても魅力的な、人と自然が交流できる公園にできればと考えています。地元の豊かな自然を守り、多くの人に知ってもらい、後の世代に引き継ぐことが我々協議会の願いです。

毎月第2土曜日の午前8時から12時まで里山整備作業会を公園予定地で実施していますので、ぜひご参加ください。(直接現地に集合です。)

VOICE!

「寝祭り」

山田もと蒼

神戸に久丸神社という、お宮があります。旧正月のさる、とり、犬の日にお祭りがおこなわれます。

お祭りといえば、おみこしをかついだり、もち投げをしたりしますが、このお宮さまのお祭りは、みんな家の中に入って、雨戸をしめ、ひっそりと寝てしまうのです。だから寝祭りです。

久丸さまが、お通りになる行列を見てはいけません。見ると、目がつぶれるぞと、言い伝えられました。

むかし、この近くに住んでいた人が、どうしてもこの行列を、一目見ようと思って、雨戸のふし穴から、そうっとのぞいたそうです。すると、ほんとうに目がつぶれてしまったということです。

大むかし、神戸の太平洋にそった村々では、急に魚がとれなくなって、暮らしに困っていました。

「どうしてだろう。」

「魚は、どこへ行ってしまったのだろう。」

「神さまに、ごきとうをあげようか。」

などと、漁師たちは、大さわぎしていました。

ある朝早く、漁師がひとり、浜辺へ来てみました。朝日にてらされて、波は金色にかがやいています。その波にうたれて、今までに見たこともない、りっぱな舟が一そう、流れついていました。中をのぞいてみると、ひとりの神さまが、たおれていました。かみをみずらにゆい、白い着物を着て、りっぱな太刀をはいていましたが、顔も手足も病気のために、ただれはてて、見るもむざんなすがたです。

きっと遠い国から、流されて来たのでしょう。

漁師は、村人を呼び集めて、神さまを、ほうべの松林の中へつれていき、たき火をして、あたためてあげたり、おかゆをはこんであげたりしました。

村人は、小屋を作って、かわるがわる、たべものをはこんであげましたが、久丸さまは、自分のみにくいすがたを、人に見られるのをたいへんきらいましたので、小屋の外へ、そっとおいてきました。

久丸さまが来てから、また、魚がたくさんとれるようになって、村はゆたかになりました。

この久丸さまをおまつりしたのが、久丸神社です。今でも、久丸さまのすがたを、見ずにいる村人の思いやりが、伝えられているのでしょう。



【著者紹介】 ◎1920年 神戸村大草志田生まれ
◎1939年～47年 野田尋常小学校へ勤務
◎1957年 名古屋童話作家協会入会
◎1992年 田原町町政功労者表彰
◎2004年 逝去

山田さんは、田原中部小学校のPTA機関誌「家庭と学校」へ1964年から41年間にわたって156もの作品を寄せ、田原に伝わる民話や伝説、田原に縁のある人物の伝記はもちろん、地域の子どもの暮らしぶりを伝え、多くの皆さんに心豊かな安らぎを与えてくださいました。

「表浜むかし話」では、山田さんのご逝去後も、その作品を紹介させていただいております。

「みんなで考え・行動する地域づくり」

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要

◆会長あいさつ◆

本協議会も発足から13年を経過し、基本構想、基本計画の実現に向け、少しずつですが、着実に歩みを進めてまいりました。

基本計画の拠点整備地区である谷ノ口におきましては、市との協働で、集落環境整備が進められているとともに、森林レクリエーション公園(仮称)の整備がいよいよ動き出しており、協議会として、地域全体として、その実現が大いに期待されています。

本協議会は、東部中学校区という小学校区の枠組みを越えた活動で、他に例のない取り組みとして、今後の田原市における地域づくりのモデルとなるものと自負しております。

今後も、4校区のつながりをより深くするとともに、他の表浜地域との連携も視野に入れながら、行政と一体となった効果的な太平洋岸の整備促進を目指したいと考えています。

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会

会長 井上常雄

◆協議会活動の経過◆

- H8.1 協議会発足
- H8.3 沿岸部に関する地元要望作成
- H9.3 基本構想「サングリーン21」策定
《方向性》・自然環境の保全と活用
・農業基盤、農村環境の整備
・観光・レクリエーション施設の整備
・幹線道路の整備
- 《展開》・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
・渥美半島全体の連絡調整
・関係機関への要望運動等の展開
- H9.11 専門部会設置
- H10.3 海浜・崖森エリアの基本計画策定
- H10.10 農地エリア整備の地元検討書作成
- H10.11 第1回表浜自然ふれあいフェスティバル開催(以後毎年開催)
- H12.10 表浜地域整備促進に関する要望活動(以後毎年実施)
- H14.11 海浜拠点整備地区の選定(谷ノ口地区)
- H15.3 ええZONEガーデン整備計画策定(谷ノ口総合整備促進協議会)
- H16.7 国土交通省事業—地域振興アドバイザーを受け入れ()
- H17.3 谷ノ口地区整備基本計画策定()

◆協議会組織◆【平成21年10月現在・順不同】

役員	会長	井上常雄(六連校区総代)
	副会長	鈴木克尚(東部校区総代)、大羽敏(神戸校区総代)、村瀬精彦(大草校区総代)
委員	市議会議員	赤尾昌昭、彦坂雄三、角谷敏夫
	漁業関係者	富田實(神戸漁業協同組合長)、松井一光(六連漁業協同組合長)
	市農業委員	細井儀宣、三浦重芳、富田政彦、清水一美
	市役所	菰田信幸(副市長)、川口侃(教育長)、菰田敏則(産業振興部長)、讃岐俊宣(都市建設部長)
顧問	鈴木克幸(田原市長)、鈴木愿(愛知県議会議員)、伊藤欣夫(愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長)	
事務局	平松正敏(田原市政策推進部長)ほか	

●表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けての動き

ハード事業

◆海岸整備(県事業)

◇海岸保全事業(傾斜護岸):百々海岸(H19)、離岸堤調査・工事(豊橋田原海岸) ◇海岸治山事業:7箇所要望中

◆拠点地区の整備促進(市事業)

- ◇公衆便所整備事業:谷ノ口海岸(H9)・大草海岸(H10)・百々海岸(H11)・東ヶ谷海岸(H13)
- ◇海岸駐車場事業:大草海岸(H11)・百々海岸(H12)
- ◇道路整備事業:南谷ノ口1号線改良(H15)・寺前上り口線拡張(H16~H18)・高畑谷ノ口線改良(H17)・谷ノ口海岸線拡張(H17~)・R42公民館前交差点改良(H18~)
- ◇公園整備事業:(仮称)谷ノ口森林レクリエーション公園整備(H18~)

ソフト事業

◆表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

◇メイン海岸:H10谷ノ口海岸・H11大草海岸・H12百々海岸・H13東ヶ谷海岸・H14大草海岸・H15百々海岸・H16分散開催・H17大草海岸・H18百々海岸・H19東ヶ谷海岸・H20大草海岸

◆表浜のレクリエーション

- ◇健康ウォーキング大会(市教育委員会):H10東ヶ谷海岸・H11大草海岸・H14谷ノ口海岸・H15百々海岸
- ◇ふれあいウォーキング大会(六連青少年健全育成):H13六連海岸

●農地エリアの整備 実現に向けての動き

ハード事業

◆農村・農地の整備(市事業)

- ◇農村総合整備:神戸地区(H12~H16)・大草、高松地区(H18~)・東部地区(H19~)
- ◇農用地基盤整備事業:谷熊新田排水対策(H20~) ◇農地・水・環境保全向上対策(H19~)

ソフト事業

◆農地基盤に関する実態調査(市事業)

- ◇農地基盤再整備に関する調査:H11表浜全域

表浜の活動紹介 ～表浜おいでん祭2009～ H21.6.7実施



▲すなはま講座(第1部)



▲ビーチフットサル(第2部)

表浜の魅力を知ることによって海岸の保護意識を高める「表浜おいでん祭」が、谷ノ口地先海岸で開催されました。

この催しは、「NPO法人表浜ネットワーク」と地元住民などによる「おいでん祭実行委員会」が主催し、様々な団体の協力のもと開催されました。

第1部では、地球環境保護支援・砂浜清掃プロジェクト(中京テレビ「24時間テレビ・愛は地球を救う」との連携事業)と題して「清掃活動」や「堆砂垣作り」、アカウミガメとアオウミガメに触れながらウミガメの生態などについて学ぶ「すなはま講座」が行われました。

午後に開催された第2部では、ビーチフラッグスやビーチフットサル、子どもサーフィンスクールなどが開かれ、子どもたちは、夏を思わせる日差しの中、砂浜ならではの遊びを満喫しました。

どのコーナーでも、夢中になって楽しむ子供たちの姿が見られ、一日を満喫しながら、表浜の海や自然に対する愛着を深めることが出来たようです。

この活動は、8月30日放映の「24時間テレビ・愛は地球を救う」で紹介されました。

平成21年度事業計画

■主要事業

第12回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 平成21年11月14日(土)

午前9時～午後1時

※悪天候の場合は12月13日(日)に延期

場所 久美原～大草の表浜一帯

※親睦会場は百々海岸

内容 海岸清掃、地引網(予定)、ビーチフラッグス、特産鍋の無料提供ほか

目的 表浜海岸の魅力、海岸侵食などの現状を広くPRすることで海岸整備の促進を図る

■推進事業

農村総合整備事業

[大草・高松地区・東部地区]: 田原市産業振興部農政課

海岸治山事業: 愛知県東三河農林水産事務所

海岸保全対策[豊橋田原海岸]: 愛知県東三河建設事務所

森林公園計画[谷ノ口地区]: 田原市都市建設部街づくり推進課

道道花壇整備[谷ノ口地区]: 田原市都市建設部街づくり推進課

第11回 表浜自然ふれあい フェスティバル

H20
9.28
開催



海岸侵食が進む表浜の現状と自然の魅力をもっとPRすることを目的に、毎年開催しているこのフェスティバルも11回目を迎えました。快晴の空の下、約2,000名の参加者が、久美原海岸～大草海岸までの海岸清掃を実施しました。メイン会場となった大草海岸では親睦会が開催され、参加者のみなさんは、各校区の特産鍋を味わいながら、交流を深めました。

★表浜情報誌「潮騒」や「協議会活動」に対するご意見・ご要望・ご感想をお寄せください。

【発行】 田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会 (事務局: 田原市役所政策推進課) 〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1 TEL 0531-23-3507

この冊子は再生紙を使用しています。